

## 事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 8年 2月 3日

事業所名 児童発達支援事業所つくべた門司

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		人数の多い場合は活動を2グループに分けて実施するなどの工夫をしております。	児童間でぶつかったりすることがないように人数制限や部屋の利用時間の調整を行う。
	②	職員の配置数は適切である	○		理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、保育士、心理士が在籍しております。	
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		抱っこでの移動を行っている。	階段にスロープがないため、ベビーカーや車いすでの出入りが困難。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○			
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		毎日、振り返りの時間を設けています。プランの進捗状況確認でモニタリング会議をしています。	全体会議の時間が短いため、議事録を残し、確認できるようにしていく。
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		新しく連絡ツールが増えたり行事がある際はホームページやお便りでお伝えしております。	
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		現在、第三者評価は実施しておりません。今後、検討していきたいと思っております
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		門司病院小児ハビリと連携しており、OT、ST、心理士、栄養士、看護師の研修会を実施しています。	
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○			
	⑪	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		お子様の年齢や状態に合わせてLCスケールやKABC IIを実施しております。	
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○			
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		毎日の振り返り、定期的なモニタリングを実施しています。	
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		セラピストと保育士のチームで活動内容を毎回決定しています。	
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		毎月、新しい活動内容となるようにチームで検討しています。月1回保護者に配布するお便りに、活動計画を掲示しています。	
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○		個別課題時間も机上で行ったり、運動ルームで行ったりお子様の状態に合わせて対応するようにしています。	
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		毎日、振り返りの時間を設けて情報共有しています。また、朝礼でも注意事項等の確認を行っています。	
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		毎日、振り返りの時間を設けて情報共有しています。	
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		支援当日に必ず生活記録用紙に記録しています。	
⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		職員間で定期的にモニタリングを行っています。		
㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		責任者、担当者のどちらか、もしくは両名で参加しています。		
㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○				
㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている		○		医療的ケアが必要な子どもさんは支援しておりません	

関係機関や保護者との連携	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○		医療的ケアが必要な子どもさんは支援しておりません	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		保護者の許可がある場合は特性をまとめた情報提供書を作成して情報共有を図っています。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		保護者の許可がある場合は特性をまとめた情報提供書を作成して情報共有を図っています。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		連携病院の小児リハビリDrやOTの研修会を受け、支援理解を深めるように工夫している。	地域の小児科の先生や門司病院の小児科医、リハビリ職員とは密に連携を取っています。今後は他の事業所や発達支援センターとも連携を図り、助言や研修会への参加出来るよう努めてまいります。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○		地域交流会として障がいのない関わらず、地域の方が当施設内で遊びを体験・共有できるイベントを実施しております。	
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○			興味のある研修会に職員が参加できるように勤務調整を行っております。参加した職員が職員全員に研修内容伝達しております。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		連絡帳の活用や送迎時に簡単な情報交換は行い、共通理解を持てるように努めています。	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレントトレーニング等)の支援を行っている。	○		正式な家族支援プログラムは行っていませんが、ご家族への育児や支援に関する相談や助言等を行っています。	今後、希望する保護者や必要性のある保護者に対して積極的に支援できるようにしていきたいと思えます。PCIT(親子相互交流療法)を行っている医師と連携し、ご紹介もしていこうと思えます。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時に説明させて頂いております。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○			
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		保護者参観、保護者交流会に加え、昨年度より「地域交流会」を実施しております。	
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○			
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		毎月「おたより」を発行しております。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○		ブログにお子様の写真を載せる際は保護者の許可を頂き、顔や名前がわからないようにしております。	
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		昨年度よりどなたでも参加できる「地域交流会」を実施し、開かれた事業所を目指しております。	
	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		防災訓練を年2回以上実施しています。	
非常時等の対応	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		防災訓練を年2回以上実施しています。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		事前に家族様から情報収集を行っています。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		事前に家族様から情報収集を行っています。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		ヒヤリハット、アクシデント事例は必ず朝礼で情報共有を行っています。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		定期的にミーティング、研修を行っています。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		身体拘束等が必要な場合は身体拘束等の適正化のための委員会にて検討するようにしております。やむを得ず身体拘束をする場合は同意書を作成し、ご家族に許可を得てから再度支援計画に反映させた後に実施しております。	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。